

米欧回覧

第31号

発行
米欧回覧の会

編集
メディア部会

七月十二日(土)の全体例会

中村政則教授、「近代日本・三つの岐路」

「二つ」について講演!

四月の全体例会では、高田誠二先生にご講演をいただいたが、七月の全体例会では、中村政則先生をお招きし「日本の近代」について講演をうかがうことになった。中村政則教授には、平成十年の七月の例会で、「司馬史観をどうみるか」と題する講演をしていただき、大好評だったことは記憶に新しい。当時一橋大学教授であった先生は、現在神奈川県大学に移られているが、今回は岩倉使節団か



佐倉ツアー・旧堀田邸

ら現代までの近代日本を俯瞰していただこうという待望の企画である。ペリーから数えれば百五十年の日本の近代史を、「明治維新、大正デモクラシー、戦後日本」という三つのポイントに焦点をあて、論じてくださる予定である。積年の蘊蓄を傾けての力のこもった講演になると想像されますので、ふるってご参加ください。日時は七月十二日(土)午後、場所は一橋の総合学術センター。(詳細は別途案内参照)

佐倉ツアー大盛況!

一昨年「那須野原」、昨年「大磯」と続いた当会の国内歴史ツアーは、本年、ペリー来航百五十年に因んで、通商条約締結交渉の立て役者だった当時の老中首座堀田正睦(佐倉藩主)や蘭学のメッカでもあった順天堂の故地を訪ねようというものであった。当日は心配された雨も上がり、大型バスが満員札止めにな

なる盛況で、ゆかりの場所を順次回覧した。また、このツアーには、最近「評伝堀田正睦」を上梓された土居良三氏も参加されてご挨拶をいただき、佐倉順天堂では佐藤泰然の御子孫である佐藤強氏が自ら説明をされて、さらに感銘を深くした。この大成功は、佐倉市在住の会員、山田珠子氏をはじめ担当幹事の浅沼晴男氏、山田哲司氏、レクチュア担当の水澤周氏、会計担当の岩崎洋三氏らの尽力によるものであり、いつもながら当会のメンバーのクオリティとパワーを感じさせた。(詳細は四・五頁)

二〇〇五年、「十周年記念行事」を考えよう!

本会は設立以来、早くも八年目に入ったので、五月の幹事会では、そろそろ十周年に向けて記念行事を考えるべきだという議論が持ち上がった。すでにいくつかの案も出ているが、例えば、前回の「国際シンポジウム」は外部の研究者が中心だったので、当会のメンバーの研究発表を中心とするシンポジウムとか、一般市民向けに歴史を学び教える塾の開催とか、記念旅行とか、会員からも広くアイデアを募りたい。夢のような壮大な案もよし、地道で堅実なアイデアもよし、是非事務局宛てに送付下さい。

「米欧回覧の会」編の記念すべき最初の出版物が刊行された。二〇〇一年十一月に当会主催で行われた、岩倉使節団派遣百三十周年記念・国際シンポジウム「岩倉使節団の再発見と今日的意義」の報告書である。

私も、連休を利用して一気に通読した。それはタイトルの通り、数々の「再発見」を意味する刺激的で興奮を覚える時間だった。

「岩倉使節団の再発見」

泉 三郎

いえば、「読みやすく、面白い」ということである。何故か、一つにはライトな内容が濃くなっていることがある。それにたとえば、今回のシンポジウムには少なくとも二人のユーモア紳士が登場した。お一人は大使五代目の岩倉具忠先生であり、お一人はボン大学のパンツアー教授である。その巧まざるユーモアに接するだけでも嬉しくなる。また、華やかなレトリックを駆使しての才気溢れる芳賀節も大いに冴えており、「今日的意味」についてのアイヴァン・ホール先生の米國政府への注文やヒュー・コータツチ卿のホンネの発言もエキサイティングであるし、川勝先生や藤

井理事長の大提言もまことに貴重である。それはまさに絢爛豪華といっている。また、巻頭には、四日間の会場の雰囲気や写真集があり、熱気溢れるメンバーのみなさんの活躍ぶりを想起することもできる。会員であるかぎり「読まざるべからず」、「蔵書の一つに加えるべからず」の書として

さて、読後の印象を一言で

第28回 全体例会報告

第二十八回の全体例会は、四月十日(土)一時半から、日本プレスセンターホールで行われ、岩崎洋三氏の司会のもと、泉代表の挨拶、各担当幹事から活動ならびに会計報告がおこなわれ(資料掲載通り)、次いでビデオ(アメリカ編、約三十分)の上映が

あった。このビデオ制作は足立光正氏の労作によるもので、従来のスライドとは別次元の作品となり、上映が終わると期せずして拍手が起った。次いで水澤周氏の司会で講演の部に移り、夕刻よりは珍楼で賑やかに二次会が行われた。なお、二十八階の会場からは折りしも見事な虹が眺められ、その美しさに一同感嘆の声を挙げた。

高田誠二先生の講演

久米邦武の学問の本質を論じる

例会議事ののち、北海道大学名誉教授、久米美術館研究員であり、一昨年の国際シンポジウムの企画委員として当会会員にはおなじみの高田誠二先生による「近習から科学技術レポーターへー久米邦武の成熟」と題する講演が行われた。



講師の高田誠二先生

講演はまず高田先生が若いころ勤務された通商産業省計量研究所での研修の思い出に始まり、敗戦後間もないころ、アメリカの産業事情を視察した先輩・上司たちがいかに熱っぽく日本の産業の今後のあり方を後輩に語り伝えようとしていたかを、同じく「科学技術・産業」のレポーターとしての久米の情熱と重ね合わせてイメージすることから始められた。ついで若き日の久米の教養が藩校や昌平黌などで、どのように積み上げられたかを考察し、また、藩主鍋島直正の近習に挙げられたことが、どのように久米の学問形成に対し働いたか

米欧回覧の会・2002年度・活動報告

2003年4月10日

	全体例会	読心会	歴史	現未来	国際交流	メディア	その他	関西支部
2002年 4月	24回例会 「米欧回覧美語記の英訳」 ゲスト:斎藤純生氏	「農業」第二部 小菅心子氏						
5月		アメリカ編 「アメリカ合衆国の総説」	「小林寿太郎外交の功罪」 深津真澄氏					ドイツ編
6月		同上			大機歴史ツアー (6/29)	ニュース27号		
7月	25回例会 「第三の開国と幕末維新」 ゲスト:松本健一氏	アメリカ編 サンフランシスコ入港 「東西風俗世情の比較」	(全体例会)	「政府・企業・NPOの 協働に向けて」 長坂寿久氏				
8月								イタリア編
9月		「実証に関する鉄」 室賀脩氏		「シニアボランティアの体験 から、バンコクでの1年間」 楠木孝雄氏		ニュース28号		
10月		アメリカ編「貿易論」 藤原宣夫氏			イタリアツアー (10/5~14)			
11月		アメリカ編 「金鉱」「インジアン」					ニューヨーク(11/8) 時事アップセミナー 「岩倉使節団とその 今日的意義」 泉三郎氏	オーストリア編
12月	26回例会 ハーバードピクスの 「昭和天皇」 ゲスト:ジョージ・秋田氏	「実証の医療—近代医学 への道と岩倉使節団」 西井易穂氏	(全体例会)			ニュース29号		
2003年 1月	「新年懇親例会」 テーマ「アメリカ」 ゲスト:大河原良雄氏 テビット・シェアム氏 (アメリカ公使)	アメリカ編 「ソルトレーク」 新年会			(新年懇親例会)		「英文実証読心会」 第1回(1/16)	
2月		アメリカ編 「車窓風景」		「日本経済再生をどうする か—デフレ対策優先か、 構造改革重視か—」			「英文実証読心会」 第2回(2/13)	スイス編
3月		アメリカ編 ネブラスカ州牧畜農業比較	「対支21ヶ条と加藤高明」 深津真澄氏			ニュース30号	「英文実証読心会」 第3回(3/20)	

を論じられた。視野が広く、見識優れた藩主であった鍋島直正は、久米をはじめとする数人の優秀な近習たちに、自分の知りたいことについてのメモを渡して調べさせたが、その事項としては当時の中国をめぐる情勢、外国の度量衡のこと、地理的なこと、科学的なことなど極めて多岐にわたり、久米たちはそのご下問に答えるべく、当時最新の書籍などにも当たりながら、広範囲の新しい教養を身につけていったのである。

後日、岩倉大使の随員として、見聞の克明な記録に当たった

会員必読の書

米欧回覧の会編 『岩倉使節団の再発見』

国際シンポジウムの報告書が、初の「米欧回覧の会編」の出版物として思文閣出版から刊行された。

四月例会でも会場受付に積みまれ、多くの会員が「自分が参加した書籍」として購入する姿が見られた。単なる記録に留まらない充実した内容であり、会員は「必読の書」として少なくとも一冊は購入して欲しい。それ以外にも買求めて、友人・知人、

場合にも、この近習時代の訓練はおおいに役立ち、彼の実証的方法の基礎ともなったと考えられる。実地に経験し、その体験についての文献やデータを集め、それらの蓄積の上に洞察力を深めていく。これが久米の方法の基本であり、その方法論、ならびに久米の関心の赴くべき範囲については、『米欧回覧実記』の「例言」の中に印象深く述べられているという。

また久米はさまざまな分野について、常に研鑽を続け、「物理學手稿」など、手書きの記録にも見られるように、科学や技

地域や母校の図書館などに贈本して、出来る限り多くの方々に読んで頂く活動を切に期待する。

会員には、定価三千六百円(税別)のところ一冊三千円(税込)の特別価格で販売。郵送の場合の送料は四百円。

購入申込み・問合せ窓口は事務局。

岩倉使節団の再発見

米欧回覧の会編



思文閣出版



司会の水澤会員

術についての知見を絶えず増殖させていった。彼のそうした手稿や、数多くの手沢本を見ると、非常に克明な書き込みも随所であり、それは久米の真摯な勉強ぶりを物語っていると同時に、それらの書き込みが『実記』の中の一字下げ部分、すなわち、さまざまな事物・事象に関する久米の個人的見解のもとともなっていることを知る事が出来、まことに感慨深いものがあると、高田先生は語った。

久米が『実記』に多用している欧米の統計数字も、おおむねその出典が特定出来るようになってきていることである。この数字の収集に対する久米の情熱もまた、久米の実証主義の現われであるという。

『実記』がその後の明治政府の政策決定などにどのような役割を果たしたかという問題については、高田先生は、比較的懐疑的で、また久米の性情としても、政策論の場から自らを遠ざける傾向があり、そのことは、あなたも近習時代に藩主から下問された事項については忠実無比に調査するが、藩の政

米欧回覧の会 収支報告

2002・4~2003

収入		支出	
◎前年度よりの繰越	626,560	◎例会および映像の会関連費用	1,631,515
◎今年度の収入	3,876,374	案内郵便代	141,510
年会費	1,007,586	会場代他	942,186
特別寄付金	1,000,000	講師お礼・車代	117,392
例会および映像の会会費	1,161,000	大磯ツアー	427,427
大磯ツアー	525,000	◎NEWS関連費用	582,010
貯金利子	183	17~30号印刷代	221,550
雑収入	182,605	送付郵便代	306,460
		◎特別費用	1,000,000
		報告・出版	1,000,000
		◎諸経費	979,786
		電話・通信費	308,956
		会場費他	239,995
		事務費	430,835
		◎次年度繰越金	363,623
	4,502,934		4,502,934



例会司会の岩崎会員

(文) 水澤会員

3月末会員数 213名

佐倉歴史ツアー

恒例の国内ツアー、今年も、幕末先進藩だった佐倉藩の城下町、佐倉市に決定し、去る五月十七日(土)実施された。

主催幹事は国際交流部会の浅沼、山田両名と岩崎幹事。東京駅八重洲富士屋ホテル前を貸切りバス

で九時出発、総勢五十八名、往路バス内にて会員の水澤周氏による堀田正睦(老中首座・佐倉藩主)を中心に堀田家の歴史についてのレクチャーがあり、十時三十分過ぎに佐倉市到着、国立歴史民俗博物館(歴博)前で山田珠子さん他五名が合流、歴博及び佐倉城址公園を見学して昼食は葛蒲荘にて。ここで佐倉市田村文化課長さんからご挨拶をかねて佐倉市の紹介



緑の佐倉城址を散策

があり、泉代表、土居良三氏(近著に評伝堀田正睦)のスピーチもあって、充実した時を過ごした。午後からは堀田家墓所(甚大寺)、旧堀田邸、佐倉順天堂記念館等を見学し、十八時、東京駅に帰着した。

鄙は鄙なりに

佐倉ツアー顛末記

山田珠子(会員)



今回のツアーでは、いつもにもまして大勢の地元ボランティアの方々に、見学した全ての場所でご案内、ご説明などの労をとっていただき大変お世話になった。厚くお礼を申し上げる次第です。またツアー全体に亘り、計画段階から会員の山田珠子さんに多大のご協力を頂いた。このあたりの事情は、左記の「顛末記」をご覧いただきたい。

(国際交流部会 山田哲司)

「来年の国内ツアーは佐倉にしたいのでよろしく」。泉代表から突然の電話を頂いたのは昨年秋のことである。「何故佐倉に？」に対する明確な答えは掴めなかったが、そのトーンに何か動かざるを得ないものを感じ取った。残念な事に、私は過去の国内ツアーに参加していない。でも会報を通じて、それが名だたる観光地での、錚々たる人物の旧宅、旧別邸等を訪ねる魅力溢れるものであったことは知っていた。それに比べて佐倉はあまりに知名度が低い。自分はそれなりに満足し、愛着をもって住んでいるが、会員の皆様には、「ツアー先が佐倉？」と感じられるのではないかと、二期待に込えられるのだから、不安いっばいの中で、鄙は鄙なりにやるしかないと思

うか、不安いっばいの中で、鄙は鄙なりにやるしかないと思括った。

二〇〇三年がペリー来航百五十年、開国を一貫して唱えた老中首座兼外国事務取扱の堀田正睦、その藩領佐倉。年末に届いた会報で私の疑問が解け、いよいよエンジン始動となった。

まずは浅沼幹事と連絡を取りながら基本構想を練り、見学先及びコース選定に入った。国立歴史民俗博物館を除いて、見学施設の殆どが佐倉市教育委員会文化課の管轄である。そこで「米欧回覧」や日経文化欄掲載の泉代表の記事を持参して、文化課に我々の会の何たるか、佐倉ツアーの趣旨は何かの理



旧堀田邸前の佐倉ツアー参加者

解を求めに向いた。幸い、課長も担当班長も佐倉日蘭協会絡みの旅や行事で数年来の旧知、資料提供やボランティアがイドの動員などの協力を快く約束してくれた。日帰りバスツアーの主催者にとって、一番頭を悩ますのは昼食と聞く。今回は例外ではなかった。佐倉には

ゆる郷土料理はない。強いて言うなら印旛沼に因む鰻や川魚料理だろう。となると、地元誰もが一押しのお鰻の老舗。味はよいが、少々田舎臭い。でも却って佐倉らしくていいかなと思いつながら当たって見た。ところが「生憎その日は...」。申し訳なさそうな女将の口調に



「評伝堀田正睦」の著者 土居良三氏



佐藤泰然像の前で説明する佐藤強氏

はいかにも残念といった思いが滲んでいた。さてどうするか。家族、友人らと次善の策を考え、試食にも出かけた。東京の垂流ではつまらないと考えたのだが、収容人員、道幅、ロケーションの点で思うに任せない。そうなるに頼りになるのは商工会議所。やはり当会の資料を手に協力を願った。そこで紹介されたのが今回の菖蒲荘である。序に駐車スペース、お土産店等についてもお知恵を拝借した。先方も目下、街づくりを懸命に模索中とあって、身を乗りだしての協力であった。こうして概略が出来上がり、

二月には浅沼、山田両幹事が下見にこられてスケジュールがほぼ決まった。三月には泉代表の依頼状を携えて、浅沼幹事が市と商工会議所へご挨拶に来

佐。細かいツメめはともかく、一会員として、一市民として私になすべき事はまずこれで一段落した。あとは当日を待つばかりにすればいいものを、つい欲張って順天堂佐藤家の新しい系図に挑戦しようと思いついた。十数年前、日蘭修好三百八十年の記念行事が佐倉でもあり、ボランティアとして順天堂の年表づくりを担当した私は、初めて幕末明治の佐倉の歴史に開眼させられた。中でも幕末期に世界へ羽ばたいていった佐藤家の人々、彼らを巡るキラ星の如き人材に心惹かれた。私と岩倉使節団との関わり

の原点もそこにあり、今回の参加者にとってもその辺に焦点を合わせた系図は何か資するものがあるのではないかと考えたのである。しかし、彼らの飛翔と人脈が一目で判る資料はどこにもなく、手さぐりの日が続いた。印刷の点で行き止まった時、佐倉日蘭協会の仲間



挨拶する佐倉市の田村氏(右は中島氏)

で広報の達人中島氏が登場。編集まで助けられ、堀田家系図も加えられた。

五月十七日、ほぼ定刻どおり

に約六十名を乗せた大型バスが歴博に到着。碩学の水澤周氏の車内レクチャーを受けて、恐らくは未知の佐倉に胸ふくらませて降り立つ皆様に満足のいく一日でありますよう念じつつ、中島氏と共に出迎えた。城下町は道が狭くクラックが多い。駐車に難儀して車を渋滞させる一幕もあったが、予定どりのコースでスケジュールが進行した。見学先ではボランティアガイドが精一杯頑張ってくれた。小部屋が多く混乱を懸念していた箇所でも事前の調整が取られていてスムーズに流れた。あとは思い思いにお土産を手を一路東京へ――。長

ゆかりの史跡 見つけた!

旧岩倉具視公私邸 「六英堂」案内

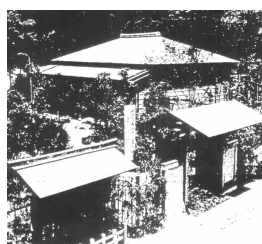
西宮市 西宮神社内

関西支部の山崎さんから朗報があった。西宮在住の会員新川富之助さんから西宮神社に岩倉公の邸があると聞いて「意外なところにあるものだ」と驚き、早速ビデオが趣味の会員の船戸さんと訪れ、宮司さんとのインタビューも含めビデオに収録してきたとの次第。

その案内書によれば由来は次の通り。「明治高官集会所」、「明治の論戦跡」などの異名をとった岩倉具視公私邸内建物の一つ「六英堂」が、兵庫県西宮市の西宮神社内で公開されている。

この建物は、もと東京・丸の内馬場先門にあり、征韓論の盛んなころ、木戸、大久保、伊藤ら諸公がしばしばこの室に会合して密議をこらした。

明治十六年七月の岩倉公薨去後は、当時宮内省御用掛であった多田好間氏(のちに『岩倉公実記二巻』を編纂)がゆずり受け、まず角筈村に移して「隣雲軒」



「六英堂」全景

と名付けて保存を図った。ところが、この場所が新宿停車場の敷地内に入り、再び渋谷に移したといわれる。その後、川崎男爵(川崎造船社長川崎芳太郎氏)の所有に帰し、保存の目的をもって神戸の地に移転する計画がたてられ、やがて同邸の屋敷地である布引丸山(神戸市葦合区布引丸山)に解体、移築するといふ数度にわたる移転を経て現在に至っている。布引の地に移築した機に、木戸孝允、西郷隆盛、大久保利通、岩倉具視、三条実美、伊藤博文ら六人の位牌と写真をまつり、当時の日本を代表する六政治家の英知を集めた建物という意味で「六英堂」と名付けられたのである。

久米美術館で八月三日(日)まで開催

エンサイクロペディアスト

久米邦武の「書齋」展

久米美術館では、今まで久米邦武の諸業績を、『米欧回覧実記』、日本史、秦東史、科学技術史などと分野別に区分した展示を行ってきた。今回は視点を改めて、事物を常に多面的に観察し考究する「エンサイクロペディアスト」すなわち、百科の学術に広く関心を向けた知識人としての久米の「書齋」での姿に注目した企画展が開催される。

「彼がどのような書齋で、どのような仕事ぶりや、あの多産的な生涯を過ごしたか、それを彼の日常行動に即した項目立てによってお目にかける」(案内チラシ) そうで、期待感が膨ら

む内容となっている。さらに、「久米の暮らしぶり、働きぶりに重ねて、明治中期から昭和前期にかけての品川、目黒地域の状況にも想いを寄せて頂けるような展示を心がけ、構成」

(同)とある点も興味深い。JR目黒駅前にある久米美術館は、まさに「書齋」のあった久米邸の跡地にある。(久米ビル八階・一階は三井住友銀行)

・六月十七日(火)〜八月三日(日)・十時〜十七時(毎週水曜日休館)・入館料五百円・ギャラリートーク(七・十二予定)・久米美術館問合せ〇三・三四九一・一五一〇

encyclopedist

エンサイクロペディアスト
—久米邦武の「書齋」展—

◆読む 見る 聞く 書く 集める 数える
語る 笑う 食べる 飲む 楽しむ◆

「徳」一日正直 二日剛克 三日柔克 平康正直
「福」友剛克 友柔克 沉潜剛克 高明柔克 惟
臨作 福惟 辟作 威惟 惟三 倉田 無有 作福 作威

2003年6月17日(火) — 8月3日(日)
10:00~17:00(入館は16:30まで) 毎週水曜日休館

主催 久米美術館 協力 品川区立品川歴史館 品川区立歴史資料室
〒140-0001 品川区品川1-13-13 品川歴史館 久米邦武記念館 二階

TEL 03-5469-2090 FAX 03-5469-2093
http://www.kumakura-museum.jp

実記を読む会の現況

連絡 クラウンインターチェンジ

Tel 03-5469-2090 Fax 03-5469-2093

info@crown-interchange.com

■第六十一回 例会報告

三月六日の「読む会」は、第一編第九巻「シカゴよりワシントン府鉄道の記」の後半部分を現代語訳と比較しながら読んだ。人口・農業生産

高・機械生産設備投資額などから当時の米国経済活動状況を窺い知ることが出来た。また、鉄道車両がボルチモア市内を通過する時は、市民の交通妨害にならぬように配慮して車両を一台ずつに分離し、それぞれを六頭の馬に引かせて進み、市外迄行くと再び各車両を連結して走ると言う珍しい方法がとられていることを知って驚いた。

例会の後半は、今回で第六十一回を迎えた「実記を読む会」の還暦祝いを行なった。いつも会場を提供してくださる多田さんが音頭を取り、ワインで乾杯した。その際、会の発足当初から「読む会」の指導をして頂いている水沢氏に感謝して記念品が贈呈された。

■第六十二回例会報告

四月三日に二十一名が出席して開かれた「読む会」は第一

編第十一巻「ワシントン府の記」上から読み始めた。「コングレス」の個所では南北戦争終結後「コングレス」設立の可否について各州から様々な意見が出て纏まらず、殆ど一年間に及ぶ議論の後、やっと纏まった。当時の大統領ワシントンが「国内の論戦は、英軍との八年間に及ぶ苦戦よりももっと猛烈で、自分の忍耐も殆ど切れかかった」と述べていて如何に激しい議論が交わされたかを物語っている。

次に「黒人問題」が記述されていて、米国社会における黒人の差別問題や奴隷売買の歴史を知ることが出来た。また、久米が「皮膚の色は知識に関係ない。優れた黒人は立派な社会的地位を得ることが出来る」と記しているのは注目に値する。

■第六十三回例会報告

五月八日に開催。第十三巻「ワシントン府の記」下の「郵便制度」を読んだ。久米はこの制度が米国において発達している、日本人が米国で買物をした場合、その品物が正確に日本に届くことに感心し、米国を含めた西洋諸国の商人が世界を股に欠けて活躍している事実に注目している。

次に久米は農業に関して米国と欧州諸国を比較して、米国は広大な土地に大規模農業を展開しているが方法は粗雑で

出版案内

『地中海を見た日本人』

牟田口義郎(会員) [著]

「エリートたちの異文化体験」というサブタイトルがついた、天正少年使節から岩倉使節団に至る、イスラム圏を含む地中海世界について貴重な記録を残したエリート集団の異文化体験を見ていく興味尽きない歴史エッセイである。

白水社(二〇〇二年十月) 販売価格二千二百円(税別)



あり、農地面積当たりの収穫高は低いと指摘している。また久米は米国における女性の待遇について注目している。国によって風俗習慣が異なるのは当然だが「最も奇怪を覚えるのは男女の交際なり」と米国で女性に特別に優遇されているさまに戸惑っている。このテーマについては例会に出席した女性会員の色々な感想が述べられ活発な意見交換が行なわれた。(文) 正木会員

★英訳実記を読む会報告

毎回輪番で音読と注記翻訳として久米原文との対比や記述の正確性検討などを活発に意見交換し、多彩な検討・検証が軌道に乗りつつある。毎回周到な準備を怠らない理科系小林さんは、金鉱山や金の精錬方法にかかわる記述について鋭い検証の他、漢文調の難文を英訳がどう処理しているかや、複数の誤訳・欠落等について鋭く指摘。又、金融業に関わる坐古さんは、当時の中国人労働者の収入や貯蓄、貨幣等経済問題についての分析を披露し、田崎さんはインターネット検索による寝台車の写真やレイアウト図等当時の米国側資料により久米の記述の正確性を検証した。また、実記を読む会の指南役で実記の現代語訳を進めている水澤さんから実記第二編英国の部第二十二巻の「コルポレーション」や「コルポレーションギヤルリー」等シテイーに関する記述の翻訳について意見を求められ全員で検討、この様な他部会との連携も今後の楽しみのひとつである。(文) 岩崎 会員

現未来部会の現況

連絡 塚本 弘

Tel 03-3211-2765 Fax 03-3213-1371

h-tsukamoto@jeita.or.jp



■例会報告

四月四日、国際文化会館で開催。「イラクと北朝鮮・日本外交のあり方を考える」というホットなテーマに二十人が出席。

まず、会員の藤原氏がイラク・フセイン体制の構造、アメリカの中東政策やネオコンなどについての背景などについて、各種の資料を挙げて問題点を提起。その後、「アメリカがイラクに仕掛けた戦

三月五日、国際文化会館に約二十人が集まり開催。内容は、会員の深津真澄氏による「近代日本の分岐点―対華二十一カ条要求」と題するレクチャー。深津氏は前回小村寿太郎を論じたが、今回は後輩外務官僚で小村に対抗意識を燃やしていたと云われる加藤高明を取り上げた。

歴史部会の現況

連絡 半澤 健市

Tel&Fax 03-3717-5576

khanzawa@dh.catv.ne.jp



■部会報告

第一次世界大戦前後の不安定な国際情勢、十六年振りに大隈を引っ張り出さざるを得なかった複雑な国内の政治情勢等の下で、第二次大隈内閣の外相として加藤が「対華二十一カ条要求」に「暴走」した経緯・功罪を説いた。参会者からも意見・質問が多く出て久々に開催された歴史部会は盛会裏に終わった。

■部会報告②

六月四日、国際文化会館で開催。歴史部会はじめての「理科系」テーマである「明治日本の技術導入―東京大学工学部誕生秘話」を山尾信一氏がレクチャー。秘話の主人公は、一八六三

年五月に伊藤博文や井上馨等と共に英国に密航した長州藩士五人の一人であり講師の祖父にあたる山尾庸三である。ロンドン大学UCLやグラスゴー大学の姉妹校に学び、帰国後工部省を創設し、後に東京大学工学部に発展する工部寮を創設する。日本に工学を定着させた山尾庸三の斬新な発想、広範囲の成果は想像を超えるものであった。「感性は知性の源泉」「人ヲ作レ其人工業ヲ見出スベシ」「大和(大いなる和) 実現はもの作りづくりの真髄、そしてひとつづくり、くにつくりの基本」等、「匠の技の継承」や「教育」について熱っぽくアツピールされた。

それにしても、大正十二年生まれとは思えぬエネルギーシユなお話は二次会まで続き、全員圧倒される思いだった。(文・写真) 岩崎 会員



山尾信一氏の熱いレクチャー

関西支部の現況

連絡 山崎 岳磨

Tel&Fax 06-6853-3137

takechan@tcct.zaq.ne.jp



■例会報告

三月五日、十七名が参加して会場は超満員。まず船戸さんによる「西宮神社・六英堂」のビデオを披露(五ページに関連記事)、見事な出来映えに拍手。世話人より霊山歴史館の伊藤博文展の報告、秋の特別展が「坂本龍馬と岩倉具視」であり、会のツアーが具体化すれば関西支部で企画・応援したいと提案。

『岩倉使節団の再発見』刊行につき紹介、西川先生の報告がヨーロッパ総論に触れておられるので、コピーして配布。『米欧回覧実記』を読むことに移る。一行の訪問しなかったスペイン・ポルトガル編、そしてヨーロッパ政俗総論に入ると、宗教についての論議が賑やかになった。世界が一つになる一方で、民族自立の闘争が激しくなる矛盾はどう解決されるのか。

運漕総論に続き、最後にヨーロッパ商業総論。実業界の経験者が多い我々のグループのこと、武士であった久米がこの時代によくこう書いたと感心した。(文) 山崎 会員

「米欧回覧の会」ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい全体例会をもちます。

分科会 テーマ別にグループ活動をします。映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・分科会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面「イズミ・オフィス」に置きます。
〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL:0426-46-3310
FAX:0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所・TEL・FAX)現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお年会費は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 米欧回覧の会

・・・ホームページのご案内・・・・・・・・・・

- ◇米欧回覧ニュース第1号からのバックナンバー
- ◇会の催し・部会活動の速報
- ◇インターネットサロン(会議室) など

<http://www.iwakura-mission.jp>

◇十周年まであと三年弱、大事業の準備期間として決して余裕がある長さではありませんが、次なる記念事業、拡大する活動を支える資金や事務局の運営など、会員二百十三人の智慧が求められています。
(N)

<催し案内>

2003年6月～9月の予定です

☆7月全体例会

日時：7月12日(土) 13:00～17:30
場所：学術総合センター(一橋)
講師：中村政則氏(神奈川大学教授、一橋大名誉教授)
テーマ：近代日本・三つの岐路
尚、新版ビデオ「岩倉使節の米欧回覧」英佛編を上映の予定です(約30分)。
詳細は別途ご案内します。

☆実記を読む会

日時：7月3日(木) ナイアガラ
場所：南青山クラウンインターチェンジ内サロン
電話 03-5469-2090

☆英訳実記を読む会

日時：6月19日(木) 18:30～21:00
7月17日(木) 18:30～21:00
8月21日(木) 18:30～21:00
場所：国際文化会館 Aセミナー室
会費：1000円(食事・飲物はできません)
世話人 岩崎洋 zaa96087@oak.zero.ad.jp

☆岩倉使節アメリカツアー

期間：9月19日～28日
尚、9月26日(金)の夜、伝統あるニューヨークの日本クラブ(1905年創設、場所はカーネギーホールの斜め前)で、泉三郎氏の講演があり、クラブの幹部ら会員との懇親会も予定されています。
申し込み締切りは7月5日。
お問合せは事務局まで。

☆10月全体例会予告

日時：10月25日(土) 午後
場所：日本プレスセンターホール
ドナルドキーン氏をお招きする予定です。

☆関西支部例会

日時：8月20日(水)
場所：大阪凌霜クラブ会議室

編集後記

◇八年目を迎えて、会員の活力は衰えを知りません。NEWS編集にもたまたしている間に、全体例会、歴史ツアー、軌道に乗りつつある「英訳実記を読む会」が新たに加わった各グループの活動報告そして関西支部からも報告や企画が次々と届き、紙面のやりくりが苦慮することになりました。

◇二〇〇一年・設立五周年記念の国際シンポジウムの成果が、当会初の出版物「岩倉使節団の再発見」(思文閣出版)として結実しました。並行して足立会員、水澤会員の超人的な技能・才能により、スライドの発展形としての三十分ビデオ版、『実記』現代語訳がそれぞれ、アメリカから大西洋を既に渡りました。これらは当会の活動やその成果を、会員のみなならず広範に訴えかける段階に入りつつあることを示しています。